

麗水万博の開幕

ソウル駐在員事務所

洪承元

去る5月12日、全羅南道麗水で「生きている海、息づく沿岸」をテーマにした麗水万博が開幕しました。1993年大田万博以来、韓国で開催される二度目の万博です。今回は、麗水万博全80余りの展示館と施設のうち、特に印象深かったテーマ館、日本館とエキスポ・デジタル・ギャラリーについてご紹介致します。

「テーマ館」では、世界各地の海洋基地から見た「生きている海」と、地球温暖化や海洋汚染で生命力を失いつつある「脅かされる海」の様子を通じ、無限の価値をもつ海の重要さを再認識させてくれます。中でも絶滅の危機に瀕したジュゴンと観覧客とのリアルタイムコミュニケーションやメインショーは、楽しみの中に感動を与えてくれます。麗水万博で注目される映像や展示物を楽しめることはもちろん、映像と実際の空間を行き来する演出は特に印象的でした。

また、今回の万博会場で一番のスケールを誇るパビリオン「国際館」では、世界105ヶ国の海・沿岸の現況と、海・人類が共存する未来のビジョンを紹介しています。各国の特産品を販売するアンテナショップもあり、海洋発展の様子と共に、多国籍文化も満喫することができます。「森・里・海、つながりを紡ぐ私たちの未来」と題した「日本館」も人気パビリオンのひとつです。『森や里とつながる日本の美しく豊かな海』、『東日本大震災からの復興と再生に向けて歩む日本人の姿』、『海からの恵みを楽しむための日本の知恵と技』などを紹介する三つのゾーンから構成されています。東日本大震災に際し、世界中から寄せられた支援への感謝の気持ちを伝える被災地の人々と、未来に向かって歩む日本人の姿は、訪れた人々の胸に強く響くものがありました。

四つの国際館を連結する天井は、全体が超大型LEDスクリーンでできています。スクリーンに映し出されるデジタル海「エキスポ・デジタル・ギャラリー」は、麗水万博での見所の一つです。様々な映像コンテンツの上映はもちろん、海中の様子や人々が撮影した写真で作られた「夢の鯨」にふと足が止り、心を奪われてしまいます。

“私たちの全ての行動は変化をもたらします。あなたはどんな変化を望みますか？”というアメリカ館でのメッセージが非常に心に残っています。海に対する正しい理解の必要性と、持続可能な海洋開発を通じ、海と共存する未来を築いて行くことの大事さを改めて実感しました。

8月12日までの万博開催中は、福岡から麗水までJR九州高速船が運営するビートル号が週3便運航しており、福岡から4時間弱で麗水に到着します。皆様もこの機会に是非麗水万博に足を運んでみては如何でしょうか。



テーマ館



日本館



エキスポ・デジタル・ギャラリー